

# 書きそんじハガキ・キャンペーン 2019 成果報告書（2018年度事業）



集まったハガキ （タンス遺産）	※	約 893,000 枚
完成した寺子屋		2軒
学んだ人びと		6,162人

ネパール 2軒  
アフガニスタン（1軒建設中）  
カンボジア（1軒建設準備中）

皆さまからのご支援によって、ネパールでは2軒の寺子屋が完成。また、アフガニスタンでは1軒が建設中、カンボジアでは建設準備が進んでいます。更にミャンマーを含め教育を受ける機会がなかった人びと6,000人以上が識字クラスや小学校クラス、幼稚園クラスほか技術訓練などを受講することができました。



# 89.3万枚以上の八ガキ（タンス遺産）達成！

## ※ 約4200万円の寺子屋募金に相当

昨年の書きそんじ八ガキ・キャンペーンも、地域ユネスコ協会の皆さまから多大なるご協力をいただきました。年賀はがきの販売枚数や利用の減少にもかかわらず、2018年12月～2019年10月の約1年間に集まった書きそんじ八ガキをはじめとする「タンス遺産」は約**89.3万枚**で、**4,200万円以上**の募金に相当します（※1枚=47円で計算）。

今年も書きそんじ八ガキ・キャンペーン応援キャラクター「書きそんじロー」をはじめとするタンス遺産3兄弟は、皆さまから大変ご好評をいただき、キャンペーンを盛り上げていきます。

1989年に開始した**世界寺子屋運動**は、今年（2019年）に**30周年**を迎え、2020年には31年目に入ります。皆さまのご支援のおかげで、これまでに130万人以上の人々が寺子屋で学ぶことができました。

しかし、世界には、未だに学校に行けない子ども約6,100万人（初等教育）、読み書きできない大人（15才以上）は7億5,000万人もいます。

平和な希望の未来を拓くために必要なのは教育です。世界を平和に変えていくために、今年もユネスコ会員みんなで力を合わせ、書きそんじ八ガキ回収に取り組みましょう！



# アフガニスタン寺子屋プロジェクト

## 寺子屋 (CLC)の設立・建設

カブール中部のバグラミ県にアフガニスタンで17軒となる寺子屋を建設しています。土地は地域の提供を受け、教育省の設計図をもとに、地元の人びとが建設作業を進めています。



アフガニスタンで初めての2階建ての寺子屋



国内避難民キャンプでの識字クラス



識字クラスの修了書を受け取る学習者



起工式の様子（教育省や地域の人に参加）

## 識字クラス

30年以上にわたる戦争により学校や教育システムが破壊されたアフガニスタン。最新の推計では成人識字率は38%と世界最低水準です。プロジェクトでは、特に女性の識字率向上のための識字クラスを実施しており、2018年度は、カブール近郊とバーミヤンを中心に**708人**が9カ月のクラスを受講しました。卒業試験には650人が合格者し、基礎的なグリ語の能力を身に付けることができました。また、紛争地から逃れてきた国内避難民の方にもクラスを実施しました。

## 職業訓練クラス

また、裁縫クラス、刺繍クラスおよび革製品づくりなど地域の収入に結び付く技術研修を**14クラス**で**382人**が受講しました。



裁縫クラスは3カ月から6カ月行われます。



# カンボジア アンコール寺子屋プロジェクト

## 設立10年目の寺子屋が自立運営へ

2006～2008年設立のチョンクニア、コックスロック、プレイクロッチの3軒の自立への移行に続き、2009年から活動するセンソック・リャンセイ寺子屋が新たに自立運営できる見通しとなりました。

所在地であるシェムリアップ州クロライン郡センソック・コミュニティは市街地から車で片道1時間以上かかり、決してアクセスがよいとはいえません。水の確保が困難で農業収入が少ないことから、農閑期には多くの村人が出稼ぎに出るなど、不利な条件が多い地域でした。しかし、10年間でさまざまな教育・収入向上活動を積み重ね、村の生活向上に取り組んできました。

識字・識字後クラスには652人が参加し、推定識字率は69.5%から80.1%に改善。今後も政府と協力して幼稚園や図書館を開き、収入向上活動を継続するなど、村の教育と発展の拠点となることが期待されています。



センソック・リャンセイ寺子屋



寺子屋運営委員のみなさん

## 寺子屋から43人の高校進学者が誕生

寺子屋の「復学支援クラス」卒業生を対象に、2015年に始まった「進学支援プログラム」。このプログラムで、学用品や制服の支給を受けて中学校に進学した子どもたちの中から、高校進学を果たした生徒が誕生しました。ただし、カンボジアの高校進学率（25%・教育省2016/17）に比べると、復学支援クラス参加者全体の17%と下回るのが現状です。各寺子屋では、一人でも多くの子どもたちが中学校を卒業できるよう、個別相談など、学び続けるための環境づくりに取り組んでいます。



高校に進学した寺子屋卒業生



“先輩”たちに続けるよう、今日も寺子屋で子どもたちが勉強に励む



# ネパール寺子屋プロジェクト

## 2軒の寺子屋 (CLC)が完成！

2018年度は、地震で被災したラスワ郡のラムチェ寺子屋が完成しました。また、2019年10月にはチトワン郡にギタナガール寺子屋が完成し、開所式典が行われました。寺子屋では今後、教育プログラムや職業訓練などが実施されます。



ラスワ郡（中部ネパール北部）のラムチェ寺子屋



ネパール南部チトワン郡に完成したギタナガール寺子屋

## 中級識字クラスの実施

2018年度は、4カ月間の中級識字クラスを継続実施し、**2,385人**が卒業することができました。識字クラスでは、ネパール語の読み書きだけでなく、栄養学や料理などの日常に役立つ科目も学びました。識字クラスは寺子屋の建物だけでなく、識字教員の家や民家などさまざまな場所で行われました。

識字クラス、は地域の人びとから選ばれた教員が5日間の研修受講後に実施しています。



民家で実施された識字クラス（ルンビニ）

## 小学校クラスの実施

カースト制度の最下層であるダリット、女子またイスラム教徒など教育の機会がなかった子どもや小学校を中途退学した子どもを対象とした小学校クラスを実施しました。

2018年度は、**14クラス**で**266人**が小学校クラスでネパール語、英語など5教科を学びました。クラスは寺子屋およびイスラムの学校（マドラサ）でも実施しました。



マドラサで行われた小学校クラス

## 幼稚園クラス・成人初等教育クラス

ネパールの寺子屋プロジェクトでは、基礎的な識字能力は身につけている女性たちを対象に成人初等教育クラス（1クラス30人）や幼稚園クラス（2クラス40人）なども実施し、地域の人びとに教育機会を提供しました。



# ミャンマー寺子屋（継続教育）プロジェクト

ミャンマーでは、政府や国際機関による基礎教育の拡充・改善への努力が続いています。その一方で、内戦の影響を受けた地方の人びとや、軍政時代に著しく経済が停滞して生み出された多くの貧困層には、教育機会が十分とはいえません。生活のため義務教育を終えることなく働く子どもの多さも深刻で、中学校最終学年の総残存率は61%です（※）。そんな青少年が陥る貧困のサイクルを断つことを目指し、ヤンゴン北部・バゴー地方域で「識字」「算数」「生活スキル」からなる「継続教育プログラム」を行っています。

（※UNESCO Global Education Monitoring Report 2019より。総残存率は、オーバーエイジの子どもも含まれる。）

## 3か年計画の2年目を終え、学んだ青少年は960人に

バゴー地方域の4地域、バゴー郡タナットピン、タウングー郡オクトウィン、ピー郡ポカウン、ピー郡パウンデーに分布する計24の村を対象に、9か月間にわたる継続教育プログラムを行いました。それぞれの村で、学校を中途退学した10～17歳の青少年が20人ずつ参加しました。

## 時には深刻な社会問題もテーマに学習

生活スキルのテーマは多岐にわたり、伝染病やHIV/AIDS、ドラッグ・人身売買などの犯罪、子どもや労働者の人権に関する知識などが取り上げられます。教育機会に恵まれなかった青少年が、読み書き計算などの基礎的学力に加えて、社会が抱える問題やリスクを正しく知り、適切に行動できることを目指しています。



日中働く学習者のため、授業は夜間、薄暗い照明のもとで実施



理解を深めるため、グループワークも多く取り入れられた

## 村の皆で若者の学びを支える

24の村では、大人たちが1村5人程度で組織する「委員会」がつくられ、2018年度は127人が参加しました。

委員は、夜道の安全確保や掃除、ときには自費でお菓子や夜食の差し入れなどを行いました。

学習者たちも各クラスで協力し合い、雨期に洪水被害を受けた道路の補修や、仏教行事では僧侶へ袈裟を納めるなど、ボランティア活動を行った村もあります。現地の関係者からは、「働くばかりだったころに比べて、継続教育に参加した子どもたちは、態度がとても前向きになった」との声が上がっています。



田園の広がる中、昼間は自然光で学習

## ■ 昨年キャンペーンのご報告

カンボジアとアフガニスタンの寺子屋とミャンマーより、書きそんじハガキにご協力してくださった皆様へのお礼のメッセージをお届けします。

### カンボジアより

#### 「復学支援クラス」(小学校相当)で学んだ子どもからのメッセージ



「家計のため、小学校をやめて2年間キャッサバ畑で働いていた私には、また勉強ができる日が来るなんて想像もできませんでした。寺子屋には、私のような子どもたちのためのクラスがあると知り、生徒として選んでもらったときにはとても幸運だと思いました。クメール語(国語)の授業が気に入っています。支援していただいている方々に、心から感謝しています。」

バラン・サーさん(15歳)

### ミャンマーより

#### 「継続教育プログラム」で学んだ子どもからのメッセージ

「学校へは5年生まで通いましたが、家が経済的に苦しかったので、中途退学しました。父、母、3人の妹と暮らしています。いまは、米・豆の大規模農家に働きに行ったり、日雇いで草刈りの仕事などを行っています。学校をやめて働くように親からいわれたとき、とても悲しい思いをしましたが、寺子屋のおかげで再び勉強することができて嬉しいです。」

カンスウウィンさん(16歳)

### アフガニスタンより

#### カブールの識字クラス(国内避難民キャンプ)で学んだ女性からのメッセージ



質問をもらって嬉しいです。「年をとると、「何を食べたいか」とか「気分はどうか」などと聞かれることがなくなります。私は学校に行くことができませんでした。家庭がとても保守的で、「女の子は学校に通う必要はなく、家で家事の手伝いをしていなさい」といわれていました。学ぶことは楽しいです。昔は、字の読み書きができるようになるなんて難しいし、ほとんど不可能だと思っていました。でも、いまではそれほど難しくなかったと感じています。」

マシャル・ガルさん(50歳)

### ネパールより

#### バグワンプール寺子屋の小学校クラスで学んだ生徒からのメッセージ

「寺子屋で小学校のクラスを受けることができて、とてもうれしいです。以前は学ぶチャンスがありませんでした。このまま勉強を続けて小学校のクラスを卒業し、公立の学校に戻って、国と地域のために働けるような人になりたいです。ずっと支援して下さる日本のみなさんにとっても感謝しています。」

ママダ・グプタさん(8歳)

